

箕山峰 夢の実現に努力し 「ひらお」と「自分」を誇れる 生徒の育成



◇「ひらお」を「あいさつ」と「礼儀」日本一に◇

校長 山本 哲之

慌ただしかった4月が終わり、爽やかな風薫る新緑の季節となりました。

さて、私が朝、正門前の交差点に登校見守りで立ち始めて気づいた素晴らしいことがあります。それは、気持ちの良い「あいさつ」です。私を見て、自分から元気よく「おはようございます。」と言ってくれる生徒が多いこと、また、交差点の前を通り過ぎる地域の方も、私の方を見て、笑顔であいさつをしてくださることに感動しています。「ひらお」がこのように「あいさつ」が飛び交う地域で嬉しく思うとともに、家庭教育や地域の力の賜物であろうと考えています。私の友人から「東京にしばらく住んでいたとき、朝、登校中の小学生に『おはよう。』と声をかけたら、びっくりした顔で怯え、走って逃げて行ったことがあった。不審者として通報されないか、心配になった。」と聞きました。これが、人間関係の希薄な都会での現実です。

登下校中に一流の「礼儀」を実践する本校生徒の姿を紹介します。ある自転車通学の生徒は、自転車を押しながら道路を横断する際、止まっていたいただいた車の運転手さんに、きちんとお辞儀をしています。またある生徒は、交差点を横断する際、見守りの私が安全を確認し手を出しながら、「どうぞ。」と声をかけると、「ありがとうございます。」と私に返してくれます。ある徒歩通学の生徒は、すれ違う地域の方に自分から進んで「おはようございます。」とお辞儀をしながらあいさつをしています。是非本校の生徒たちには、この素晴らしい姿を『平生中ブランド』として広げてほしいと願っています。

今後、生徒たちが出て行く社会の中で求められているのは、コミュニケーション能力のある人材です。勉強の成績だけでなく、最後はこれで人間性を評価されることはご存じの通りです。まさに「あいさつ」と「礼儀」は、全てのコミュニケーションの始まりです。きちんとした「あいさつ」と「礼儀」は、人格表現の一つであり、好ましい人間関係をつくる第一歩です。この習慣は、家庭でまいた種が芽を出し、学校で育ち、地域で花を開くものであると考えます。今後も保護者や地域の皆様には、本校生徒が主体的にこのような行動ができる力を育むために、ご協力をお願いいたします。この「ひらお」を、どこにも誇れる「あいさつ」と「礼儀」日本一にしていきたいと思えます。

各学年部から

各学年から最近の生徒の様子についてお知らせいたします。

【1年部】

中学校生活が始まって1か月以上が過ぎました。緊張や不安を抱きながらも、一生懸命にがんばる姿勢は、学校全体にも活力を与えています。授業は、元気な挨拶や積極的な発言により、良い雰囲気での学習が進められており、部活動でも顧問や先輩に教わりながら、意欲的に取り組む姿が見られます。また、現在は25日（木）に実施予定の「平生町史跡巡り」に向けて、実行委員を中心に話し合いを重ね、具体的な計画を検討しているところです。

初心を忘れず、互いを思いやり、切磋琢磨しながら共に成長していくことを願っています。



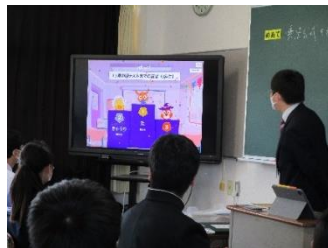
【2年部】

生徒たちは2年生に進級し、中学校生活ではじめての「後輩」を迎えました。生活ノートには、委員会や部活動で「先輩」と呼ばれることへの喜びが記され、照れながらもその責任の重さをかみしめている様子です。現在は、25日（木）に実施予定の校外学習に向けて、実行委員のリーダーシップのもと準備に取りかかっています。当日は、平生町の「まちづくり出前講座」に参加させていただき、平生町の歴史を学び、平和について考えを深めていく計画です。学年目標「一致団結～気づき・考え・行動する～」のもと、互いに絆を深めながら、より成長してほしいと願っています。



【3年部】

最上級生としての1年がスタートしました。生徒たちは、委員会活動や部活動でリーダーシップを発揮し、後輩たちの良き手本となれるようがんばっています。先日は第1回の学力診断テストが行われました。3年生は年間6回の学力診断テストを実施します。夢の実現のために目標を掲げ、計画的に学習を進めていってほしいと思います。現在は、24日（水）から実施予定の修学旅行に向けて、実行委員を中心に準備を進めています。中学校生活最後の1年です。仲間とともに「認めあい 支えあい 高めあい」有終の美を飾ることを期待しています。



★教職員工ッセイ★

2年2組担任 坂本 舞夏

初めての赴任先、平生はたくさんの魅力で溢れていました。

その中でも特に素晴らしいと感じたのは、「助け合いの心」をもった子どもたちです。体育の授業後の片づけでは、「コーンとホワイトボード片づけましょうか?」「電気消します!」と自主的に行動する子どもたちの姿が見られました。当たり前のことかもしれませんが、どのコミュニティでもそのような場面が見られるのは平生の魅力だと感じます。

子どもたちと関わる中で、ふと私自身の中学生時代を振り返ることがあります。教師になった今の私が、もし中学生の私にアドバイスできるなら、「完璧人間でなくていいよ。」と伝えたいです。完璧でないと発表したくない、周りに弱さを見せたくない。そんな気持ちがどこかにあったように思います。成長する機会を自分で奪うなんて、もったいないですね。だからこそ、子どもたちには完璧でなくてもいいから、努力した等身大の自分を隠さず見せてほしいと思います。そして、私も教師として子どもたちが安心して挑戦できるような居場所を作っていきたいです。